

2015年度 文教大学生活科学研究所

公開講座記録

開催期間 第1講座・第2講座 2015年9月26日(土)
第3講座・第4講座 2015年10月3日(土)
会場 文教大学越谷校舎8号館5階8501教室

開会の挨拶 研究所所長 金藤 ふゆ子
司会進行まとめ 研修部主任 八藤後 忠夫

テーマ「続・今に生きる江戸文化」

— 芸能・武芸・書・教育 —

日本の近代は江戸中後期頃からその萌芽がみられるというのが定説のようです。江戸を含めたそれまでの“豊かな”文化は日本の近代化によってその良さが摘み取られてしまったとも考えられます。近代化以前の江戸の文化は、現在の私たちにも多くのことを教えてくれるような気がします。

江戸の暮らしや学びのシステムをもう一度ふりかえりながら、合理的な文明の中にある私たちの“生き方”を今一度別の角度から考えてみませんか？ 好評につき昨年度の続編とします！

第1講座：昨年この講座では「腑分け」と称し、素材や構造を分解しながら三味線をご覧いただきました。二年目の今年は、持ち運びするために解体した三味線を、演奏できるまで接なぐところから始めます。現代は、音楽なり楽器をコミュニケーション・ツールとして、横の接なぐりを深めるものと捉えます。しかし日本文化は、楽器を改良したり演奏方法を換えず、縦の接なぐりを重要視してきました。400年前と同じ音を聴くことが、「縦の接なぐり」。すなわちご先祖たちと無言の対話をすべく、学習より視聴に重きを置く講義となります。

第2講座：いっさいちよざん 佚齋栲山『猫之妙術』は彼が編んだ『田舎莊子』全十冊の一章である。この『猫之妙術』は一刀流の伝書の一つともいわれ、山岡鉄舟が愛読していたことでも知られている。『田舎莊子』の書名の如くこの『猫之妙術』は『莊子』の影響を受けており、寓話方式を用いて真実を伝えようとするのはそれに準拠している。勝軒の家の鼠はいったいどの猫によって退治されるのか、その手法は如何に。一緒に読み解いていきましょう。

第3講座：江戸時代にはどのような書が好まれ、また、人々はそれらをどのように鑑賞し学んでいたのでしょうか。本講座では、こうした視点に立ちながら、江戸期の書の様相とその広がり

について見てゆきます。江戸時代は、新たな傾向の書が生まれた一方、古典的な書への愛好も高まった時期でした。まずは、そうした当時の書をめぐる状況について概観します。次いで、書文化がどのようなかたちで人々に享受されていたのかを考えたいと思います。とくに後者については、出版文化の発達という江戸期ならではの特質とも重ね合わせて眺めることとしましょう。それまでにはなかった書の受容のありかた、そして、今日につながる文字文化の様相をも見出すことができるはずです。

第4 講座：長年、「未開」「チャンバラ」のイメージで語られてきた江戸時代をめぐって、見直しの動きが見られます。それは、265年に及ぶ国内・対外的な「平和」と、これを支えた「文明化」というイメージです。この「平和」と「文明化」を支えたのが、「江戸の教育力」でした。来日外国人も驚いた日本社会の教育の普及の実態と意義をお話しします。

第1 講座 縦に接^つながる江戸の音曲

縦に接^つながる江戸の音曲 — 三味線、祖先と出会う楽器 —

文教大学 生活科学研究所 客員研究員

岡 本 紋 弥

1. なぜ三味線が、日本の音文化の象徴なのか
2. コミュニケーションは、横に広げるだけではない
3. 講座から、口演へ

第2 講座 『猫之妙術』を読む

『猫之妙術』を読む — 自得と見性を考える —

文教大学 教育学部 教授

加 藤 純 一

1. 『猫之妙術』とは
2. 時代背景
3. 古猫と強鼠と件^{くだん}の猫ども

第3講座 江戸時代の書

江戸時代の書

—文字文化とその広がり—

文教大学 文学部 非常勤講師

山口 恭子

1. 新しい書表現—江戸時代初期「寛永の三筆」—
 - (1) 近衛信尹このえのぶただ (2) 本阿弥光悦ほんあみこうえつ (3) 松花堂昭乗しょうかどうしょうじょう
2. 古典への回帰—古筆切と手鑑の愛好—
 - (1) 古筆と古筆切こひつぎれ (2) 手鑑てかがみ
3. 江戸時代における書の広がり
 - (1) 名筆集の出版 (2) 手本の出版 (3) 手鑑の印刷—『御手鑑』

第4講座 幕末の教育

幕末の教育

—江戸文明化の達成—

東京学芸大学 教育学部 教授

大石 学

はじめに—江戸イメージの転換—

1. 時代劇の変化から—「チャンバラ」から「現代劇」へ—
2. 日本型社会・システムの成立・発展
- I 大河ドラマの経験から—江戸の達成—
 1. 幕末大河ドラマの経験から—「江戸の達成」としての幕末維新—
 2. 現代社会と教育問題 3. 『花燃ゆ』のテーマ 4. 登場人物
 5. 藩校明倫館と松下村塾 6. ドラマのシーンから
- II 平和の到来と文字社会—江戸前期—
 1. 社会への胎動—宣教師の報告 2. 文字社会の成立
- III 8代将軍吉宗の教育改革—江戸中期—
 1. 享保の改革の展開 (1716～45) 2. 官僚制の整備／公文書システム／法典の編纂
 3. 社会の変化 4. 国民教育の振興 5. 郷学への援助
 6. 記憶から記録へ—文書主義の浸透—
- IV 国民教育の発達と普及—江戸後期—
 1. 吉宗の教育改革をへて、江戸後期には全国各地で、武士・民間の教育熱が高まり、国民教育が飛躍的に発達 2. 教育の普及 3. 藩校の設立 4. 郷学の増加
 5. 手習所（寺子屋）の普及 6. 外国人の驚き

おわりに